次にもう一筋、大きな宮川の扇状地が、現在の会津高田町南の高橋辺の峡谷を扇頂として拡がっている。半径六キロ、下寺崎、安田、東側に越えて田中新村を結ぶ辺に、最も見事な扇状地地形がみられ、その扇端は濁川をあわせ、旧鶴沼川、現在の大川扇状地とあわさって、会津盆地底南半を複合扇状地地形にしている。

四、阿賀川・宮川の変遷

大川（阿賀川）の現在の中州（蟹川）

現在の盆地の堆積地形をみても、複合扇状地の状態がよくわかるのであるから、この間相互に河筋に変遷があったことは充分うかがわれる。記録としては寛文十二年（一六七二）脱稿の会津旧事雑考の天文五年（一五三六）の項に詳しく、洪水によるものであるから、次項に詳述するが、河川の名称についても、いろいろな変遷があるので、これを現在の名称に照合してなおしておかないと混乱し易い。

鶴沼川というのは、現在宮川下流の新鶴村、会津坂下町東縁を流れる場合によばれている。これは、もとは、現在の大川上流でよばれた名称で、岩瀬郡の羽取村鶴沼から出たから呼んでいたという。現在も鶴沼川と呼んでいる。大川が向羽黒東北の岩崎崖下から西北流して濁川に合い、つづいて宮川に合流した際、当時の鶴沼川が宮川下流で合流したことになるから、鶴沼川という名称がそちらに移って残るようになったと思われる。迷い易いから、現在阿賀川河川事務所などの